

過去10年間に世界で発生した自然災害と大事故による死者数(大陸別)

	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	合計
アフリカ	2,972	3,484	4,064	7,006	2,688	5,756	4,462	8,272	5,810	4,308	48,822
南北アメリカ	2,628	2,541	3,069	21,865	33,989	1,820	3,460	2,285	2,026	8,269	81,952
アジア	75,590	69,706	71,033	82,373	75,890	11,608	29,255	13,358	37,860	236,102	702,775
ヨーロッパ	3,366	1,204	1,166	1,434	19,448	1,627	2,196	1,699	31,046	1,182	64,368
大洋州	24	111	388	2,227	116	205	9	91	64	35	3,270
合計										249,896	901,187

(国際赤十字社・赤新月社連盟 発行「世界災害報告2005」より抜粋。資料・日本赤十字社)

避難生活と今後の「心のケア」

被災した人々が一番必要としていることは「心のケア」だと思います。海外からの支援活動などが必ずしも被災地の人々の必要とするものとは違っていたりして、アチェの人たちは外部からの救助隊や救援者、アチェ人同士に対してさえもすっかり不信感を抱いていました。

行く前は子供たちのための生活支援、学校建設などが必要だろうと考えていましたが、実際に被災地の人々に接して大人の心の救済も必要だと思いました。復興計画を立てるには現状をフィードバックするデータが必要ですが、人々は心を閉ざし何も話してくれません。辛いことにも文句を言いません。何かあっても報告をしないし、何か聞かれても返事をしません。何故なら様々な機関、団体が同じことを繰り返し聞いていっても、その後は何もしないことを経験したからです。私は今、こうした人々のために自分にできることがあるのではないかと考えています。

子供たちに生きる夢と希望を与えたい

アチェ州だけでも地震、大津波で親兄妹を失った孤児は3万4000人もいわれています。今、何もかも失ってしまった子供たちに夢と希望を与えてあげたいのです。たとえば、日本の子供たちや学校と交流することで、頑張ればいつか日本の友だちに会える、というような将来への夢や生きる希望がもてるでしょう。そんな話をしたら、私たちを一時帰国させてくれた「TSUNAMI」が今度は北海道からの応援のメッセージを書き込んだサッカーボールを贈ろうと活動を始めてくれました。

自分も小学生の時に父を亡くし、母と兄妹たちに育ててもらいました。外国に勉強に行くという夢を抱いて頑張ってきました。アチェの子供たちにも夢を与えたいと思っています。



各地を駆けめぐってボールの寄贈を呼びかけた



ボールにはひとつずつ励ましのメッセージを書き込んでもらった



コンテナヤードでボールの汚れを落としなどの作業をするメンバーたち。後ろのコンテナに積んで送った

あの津波から1年 大津波で被災して傷ついた子ども達へ、笑顔と元気の夕ネを送ろう！

<1年目の12月26日に向けてサッカーボールが届けられます>

「眠っているサッカーボールはありませんか?」。サッカーが大好きなインドネシアの子供たちに、「忘れてないよ」と励ましを送り続けたいというルビスさんの思いを形にと「TSUNAMI 留学生帰国支援・北海道(以下、TSUNAMI)」が行った呼びかけに対して、11月上旬までに1472個のサッカーボール、その他ボール834個、空気入れ33本等が寄せられました。「TSUNAMI」は今年1月にオープンジャパンの「TSUNAMI 留学生帰国支援」に賛同して札幌に生まれた有志のグループです。北海道からはルビスさんと他2名の留学生の被災した母国への一時帰国が実現しました。そして、現地を見てきたルビスさんの話からまだまだすることがある、とこの計画は始まりました。「TSUNAMI」の呼びかけに対して「ボールはないけれど輸送経費に」と全国から寄付が寄せられました。ボールの遠隔地からの輸送、保管から輸送コンテナの手配、通関手続きなどはナラサキスタックス(株)(石狩市)の全面的な協力を得ました。9月のボール集め開始以来、寄付集めのチャリティーコンサートの際、無償で会場を使わせて下さった専門学校ビジュアルアーツや大勢のアーティストの皆さん、チャリティーで集めたお金を寄付して下さいた北海道インドネシア留学生協会、またボールを寄贈したり試合会場でボール集めの場所を提供して下さいたコンサドーレ札幌や各地のサッカー協会、プロジェクトを報道してくれた新聞、ラジオ番組などのメディア各社、そして1個、2個とボールを持って(送って)きてくれた人々、たくさんのボールを運んでくれたサッカー少年団や中学・高校のサッカー部の皆さん、本当にありがとうございました。集まった2306個のボールはNPO法人「飛んでけ車いすの会」から預託された車いす5台や小樽のボランティアからの文房具とともに船積みされて、11月22日に石狩湾新港からインドネシアに向かいました。署名や励ましのやメッセージが書き込まれたサッカーボールは、インドネシア側のボランティアの手でアチェの子供たちに手渡されます。



問い合わせ・連絡先
TSUNAMI 留学生帰国支援・北海道 代表 大井わこ
ブログ:<<http://genkihkd.exblog.jp>>
メール:<genki_ryugakusei_hkd@yahoo.co.jp>